



題字 井口 文章
再刊 第390号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2022

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：1年生宿泊行事開催！
現職警察官の講演会が開かれる
二面：3年生、修学旅行の代替行事となる
宿泊行事を開催

絆を深めた島半総房

1学年宿泊行事実施

6月23日(木)から24日(金)にかけて60回生の宿泊行事が行われた。館山コース、鴨川シーワールドコース、清澄寺コース、鋸山コースの千葉県内の4つのコースが設定されており、コース変更のトラブルはあったものの、各々親睦を深めることができた。今号ではその様子をお届けする。

期待を胸に出発

6月23日(木)から6月24日(金)にかけて、60回生の宿泊行事が行われた。東京駅近くのバス専用駐車場に集合した1学年505人は、仲間と初めて行う宿泊行事に対する



大迫力のジャンプを披露するシャチ

個性豊かな昼食

1日目の昼は飯盒炊爨。5〜6人の班に分かれ、役割分担をしてカレーライスを作った。火起こしや飯盒など普段はできない貴重な体験を行った。この日は途中から小雨が降り、特に火起こしでは火を燃やしたりすることが大変だったという声が多く聞かれた。

自然の中でふれあい

1日目はマザー牧場へ向かい、珍しい動物とのふれあいを楽しんだ。マザー牧場に入ると、最初に目に入るのはフアームステーション。ここでは、ヤギに200円で餌を与えることができる。また、ヤギはともにも懐っこく、近づく



協力してカレー作り



ヤギのお出迎え

豪快な海獣ショー

C、E、F、G、H、I組が訪れたのは鴨川シーワールド。魚たちが優美に泳ぐ水槽の他に、シャチやイルカ、ベルガ、アシカなどの海獣ショーも魅力的だった。特に目を引かれるのは、オーシャンスタジアムで行われ、日本一だと言われるシャチショー。海の王者と例えられるシャチが見せる大迫力のジャンプは、飛び込みによる水しぶきで前方の観客が濡れることになるほど。実際に最前列にいた山田

不安定な気候が続いています

突然の雷雨などの
天気の崩れに注意！
こまめな天気予報の
チェックを！

貴重なエサやり体験

鮮やかな和の景色

世界に1つのカレー完成！

60回生 宿泊研修グラフィティー

迫力のイルカショー！

ウサギと戯れる！

おみくじを手にとりピース！

日々の努力で掴んだ栄光

女子フットサル部優勝



笑顔で感謝を述べる2人

5月15日(日)に行われた第3回高校生女子フットサル選手権大会で優勝を挙げた女子フットサル部。部長の尾崎智美さん(3C)と副部長の宮ノ原楓心さん(3K)が今回の大会と3年間の活動について振り返った。

しかし、流れに乗った錦城は決勝戦にてリベンジを果たす形での勝利。栄光を掴むことが出来た。また、3年間の女子フットサル部の活動を振り返って宮ノ原さんは「やはり日々の練習が一番の思い出です。受験生となり、部活動と距離を置いている今の状況ではフットサル部での活動が自分にとってかけがえのない物になっていくと気づくことができました。」と語る。

「後輩は私たちのことを色々な面で支えてくれました。そしてマネージャーはチームでお揃いの御守りを作ってくれました。その全てに感謝しています。おかげでチームの団結力が高まりました。練習はとも辛く、苦しいですがそれを乗り越えたら楽しいことが待っています。頑張ってください」と後輩たちにエールを送った。(桂)

宿泊研修を総括する島田先生

むらさき草
期末テストや模試の結果が返ってくるだろう。この時期は皆さんの結果に一喜一憂しているのではないかと皆さんはドラゴン桜を存じだろうか。内容を簡潔に説明すると弁護士桜木健二が偏差値32の生徒を現役で東京大学合格へと導く話だ。ここで私が印象に残ったのは、第7話の東大模試で東大を目指す生徒が7名中4名E判定で落ち込む生徒に声をかけた場面。桜木先生は「失敗したときは笑えよ」と生徒に向けて、声をかけた。この場面を見たとき、ふと小学校の卒業式の日のことがよみがえり、当時の担任にかけられた言葉を思い出した。「怒ったり、イライラしたらダメ。笑う人が幸せになれるよ」。なぜ笑うことが幸せにつながるのか？ ネットで調べてみると、笑うことで「NK(ナチュラルキラー)細胞」が活性化されるそう。この「NK」とは、ウイルスや細胞を破壊する細胞で活性化すればするほど、免疫力が上がるそう。また、ストレスが高まると交感神経が優位になり、ストレスホルモンが増えるが、笑うことにより副交感神経が作用しストレスホルモンの分泌を抑える。さらに、私は何十年も前のお笑い芸人「ドリフターズ」が大好きでDVDを見てはいつも笑っていた。そんな時おばあちゃんが「ドリフターズ」の公開録音を見に行った時のことを「行くのが楽しみでその日が待ち遠しかった。見に行った後はその余韻に浸りながら仕事も絶対頑張ることができた」など幸せそうに話してくれた。おばあちゃんほど長く人生を生きてはいないが、何十年経った今でも忘れないのはおばあちゃんにとっての大切な思い出だからだろう。そして今でもその思い出をおばあちゃんを勇気づけている。つまり笑うことは自分の人生の支えになり、幸せに繋がるのではないだろうか。(歩)

「D、I組は千光山清澄寺で瞑想と写経を体験した。清澄寺は、不思議法師という僧侶が光り輝く柏の木で小さな虚空蔵菩薩を彫り修行したこと始まり、虚空蔵菩薩は智慧の菩薩の中から選ばれた日本三体の1つとして信仰されている。写経の前に心を落ち着かせるために行うという瞑想が背筋を伸ばし、手を定印という形にして目を程よく開いた状態で自分の2、3畳先にある畳を見ながら、呼吸を長

今回の行事を振り返って
宿泊行事を終えて、今回の行事のチーフを務めた島田航一朗先生にお話を伺った。生徒のルールやマナーについて「集合時間に遅れるなど、時にルールズな点が多かった」と話した。また「消毒の徹底を行い、食事の時間には、おむね静かに食べられていました」と話す。感染対策については「先生方の言ったことをしっかりと守ることが出来ていました」と、一年生の行動を評価した。最後に一年生に向けて「みんなが宿泊行事で経験したことを今後どう活かしていくか考えて欲しいです」

と語ってくれた。全体を振り返って望月慶進さん(IH)は「宿泊行事を「クラスメイト」と長い時間を一緒に過ごしたので、絆が深まりました」と話す。今年が本来4月に行われていた点について田村瑞穂さん(IH)は「クラスに慣れず、緊張している4月に行くよりも、みんなと仲良くなった状態で行った方が楽しいと思うので6月に行けて良かったです」と語った。他の1年生からも「今の厳しい状況で宿泊行事に行くこと

【1日目】松島自由行動

瑞巖寺

瑞巖寺は、臨済宗妙心寺派に属する禅宗寺院で、正式名称は「松島青龍山瑞巖円福禪寺」という。828年に慈覚大師円仁によって開創された後、何度か宗派と寺号が変わり、現在の「臨済宗妙心寺派瑞巖寺」となる。また、瑞巖寺本堂と庫裡は国宝に指定されており、見学に訪れている生徒も見られた。本堂以外にも、宝物館もあり、国指定重要文化財の本堂障壁画や日本三景松島に関する絵画や書跡が展示されていた。



雨の中、瑞巖寺の敷地内を散策する

瑞巖寺を見学したAさんは、長い歴史を持つ瑞巖寺を実際に目の当たりにして感動したという。「雨の中ではありませんでしたが、松島まで見に行った価値はあったと思います」とAさん。実際に肌で感じて見ると、貴重な経験の1つになったと語った。

笹かま手焼き体験



松島蒲鉾本舗は、自分で笹かまぼこを焼く体験ができること有名。おおよそ6〜7分で焼き上がり、体験の後はその場で焼き立てを味わえる。一噛みすると、ふわふわの身と程よい塩味が口の中に広がる。また売店コーナーでは、様々な種類の笹かまぼこを買うことができる。シンプルなものから、中に牛タンや牡蠣が入っている笹かまぼこまで、ジャンルも多彩。松島に訪れたら一度は立ち寄りしてほしいスポットだ。

実際に体験したBさんは「思ったよりも時間がかかりましたが、焼ける様子をただ眺めるのも楽しかったし、しっかり焼けて良かったです」と話す。さらに「東京では、こういった体験はできないので貴重な経験になりました」と語った。

【2日目】震災語り部バスツアー

2日目は、A～F組は午前、G～M組は午後、南三陸町にて「震災を風化させないための語り部バス」を実施した。各クラスのバスに乗り込んだ語り部の方から、震災遺構の案内をしてもらいと同時に、東日本大震災当時の話を聞いた。クラスによって回る順番が異なったが、今回はその中の1つを取り上げる。

ホテル観洋を出発してまず向かったのは高野会館。ここは津波が襲ったあとの姿そのまま保存されている。建物の壁には、津波が到達した高さが記されていた。当時は芸術発表大会が行われていたが、本来の避難場所ではない屋上へ避難したことで327人と犬2匹の命が救われたという。

次に、震災復興記念公園、防災対策庁舎を訪れた。バスから下車し、庁舎を間近に見ながら話を聞いた。ここは、建物すべてが津波に飲み込まれ、屋上に避難していた43名が犠牲となった。現在は鉄骨のみが残っている。震災当日は2人の職員が最後まで防災無線のマイクを握り、必死に避難を呼びかけ続けた結果、多くの町民が高台へと避難して助かったそうだ。庁舎は2031年までそのままの姿で保存されることが決まっている。

南三陸さんさん商店街を歩いてバスへと戻り最後に向かったのは、戸倉地区。公民館(当時は中学校)で再び下車した。津波はこの場所を2方向から襲ったといい、時計は停電で止まったまま残っている。また、近くには小学校もあったそうだが、現在は取り壊されており、その姿を見ることはできなかった。

語り部の方は教訓として、勝手に「想定」して行動しないことや自然災害は誰も正確に予測できないこと、中心者の行動の重要性などを挙げた。私たちは今回学んだことを、3.11を忘れずに、語り継いでいかなければならない。(表)



防災対策庁舎を眺めながら語り部の話聞く生徒

58回生 3年目の悲願叶う

3年生東北旅行6/6(月)～6/8(水)

6月6日(月)から8日(水)まで、58回生の東北旅行が行われた。3日間ともあいにくの天気となってしまったが、58回生初の宿泊行事となり、多くの思い出をつくることができた。今号では、東北旅行での58回生の姿をお届けする。



大水槽を眺める3年生

6月6日(月)から8日(水)まで、58回生の東北旅行が行われた。3日間ともあいにくの天気となってしまったが、58回生初の宿泊行事となり、多くの思い出をつくることができた。今号では、東北旅行での58回生の姿をお届けする。

【2日目】仙台うみの杜水族館

2日目、G～M組は午前、A～F組は午後「仙台うみの杜水族館」を見学した。

「仙台うみの杜水族館」には、約100基の水槽が設置されており約300種類50000点の生きものが飼育、展示されている。この水族館は、豊かな三陸の海を再現した大水槽などで日本の生きものの展示をしている「日本のうみ-東北のうみ-」、世界中の個性的な生きものの展示をしている「世界のうみ」、イルカ・アシカ・バードのパフォーマンスを行う「うみの杜スタジアム」、ペンギンやアザラシなどの海獣類が展示されている「海獣ひろば」の4つのエリアに分かれている。見学中には、「うみの杜スタジアム」にてイルカ・アシカ・バードによるパフォーマンス『STADIUM LIVE～We Are One～』や大水槽「いのちきらめく うみ」にて、マイワシによるパフォーマンス『Sparkling of Life』が行われ、生きものの迫力や躍動感に魅了される生徒の姿も多く見られた。イルカショーを観賞したというDさんは「イルカショーの最後の、4頭のイルカがジャンプしたところが美しく感動しました」と話した。(紅)

【1日目】震災語り部クルーズ

1日目の松島自由行動の間にA～F組とG～M組に分かれて震災語り部クルーズに乗船。雨天だったものの無事に船は出発し、260余りの島のある松島湾を1周した。震災語り部クルーズでは松尾芭蕉が訪れた雄島や松が1本だけ生えている千貫島など、松島湾に浮かぶ島々やその島にゆかりのあるものについての説明があった。また、語り部の方が、震災の影響で網が絡みついてしまった仁王島や震災時に実際に人が住んでいたが犠牲者がいなかった桂島など、東日本大震災の影響を受けた松島湾の島々や東日本大震災の時の実際にあった話を写真を使いながら語った。さらに地震が起きたときに参考にしたい情報クイズもあった。そして、約50分間の震災語り部クルーズは終了した。

Cさんは「雨で松島湾の島々が見えなかったのは残念でしたが、松島湾の島々や東日本大震災の話が聞けて良かったです」と話した。(鳥)



乗船したクルーズ船の様子

【2日目】レクリエーション ABCDEF

仙台駅から、観光路線バス「1号」で仙台駅約30分の場所に位置する仙台城(青葉城)は、伊達政宗が徳川家康の警戒を避けるために築城したと言われていた。伊達政宗の意向により、天守閣はあえて設けなかったそう。現在は城跡一帯が青葉公園となり、石垣と櫓のみが残っている。標高は約130メートルで、市内を一望することができる。また、この場所には「伊達政宗公騎馬像」がそびえ立っているが、3月16日に発生した地震の影響で現在は修復中。像の写真がプリントされているシートに覆われていたため実際に見ることはできず、訪れた生徒は残念な表情を見せた。この地を訪れたFさんは「伊達政宗像が見られなくて残念でしたが、仙台の景色が良かったです」と話した。(表)

【2日目】レクリエーション GHI JKLM

A～F組のレクリエーションでは、合計3つのゲームが行われた。最初に行われたのは、マジカルバナナゲームと伝言ゲームを合わせた「マジカル伝言ゲーム」。与えられたお題を元に、「そのお題といえど何か」を後続に伝えていく。最後の人が考えたお題と、最初にお題で示されたものが合致すれば得点を獲得できるというルールだ。次に行われたのはイントロクイズ。YOASOBIの『夜に駆ける』やBUMP OF CHICKENの『天体観測』など、様々な曲が出題された。最後に行われたのは〇×クイズ。一般常識からマニアックなものまで、多彩なジャンルのものが出題された。参加したEさんは「コロナ禍の中でしたが、良い思い出になりました」と語った。(桜)

千代の間にG～M組のレクが行われた。参加生徒は、〇×クイズ、イントロクイズ、人間ビンゴの3種目で、正解で得られる景品の「達成感」を目指す。〇×クイズでは、常識的な問題から学校についての問題まで幅広く出題された。特に後半に多く出された先生に関する問題で大きな盛り上がりを見せる。続くイントロクイズでは、初めは標準的な問題のみだったが、後から2倍速や0.25倍速の問題が続く。さらに最終問題は星野源の『恋』、大塚愛の『さくらんぼ』、GREENの『キセキ』の3曲を同時に流すという問題で、多くの生徒が開き取れないと声をあげるほどの難問だった。最後の人間ビンゴは、クラスごとの男女別に分かれて行われた。司会の質問に該当する生徒がその場で立ち、立った人でビンゴを作る。質問ごとに徐々に立ち人数が増えていき、最後の「東北旅行楽しかった人」という質問で全員が立ち、盛大な拍手が起こった。

HR委員の言葉で締めくくられたG～M組のレクは、最後の夜の思い出に残るものとなった。(甘)



レクは大きな盛り上がりを見せた



イントロクイズを楽しむ



大広間跡の様子
現在は土台が残されている

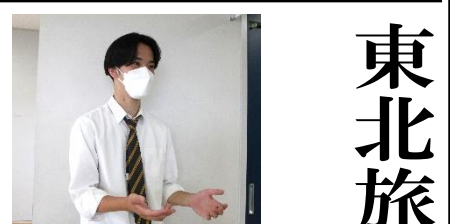
【3日目】仙台自由行動

仙台駅の2階にある牛タン通りとずんだ小径では、その名の通り、仙台名物である牛タンとずんだを堪能することができる。牛タン通りでは昼時という日もあってどの店も多くの人が並んでおり、その中に錦城生の姿も多く見られた。中でも有名なのは「利久」で牛タン定食を食べたGさんは「東京で食べた時よりも一枚一枚が分厚くて、噛み応えがありました」と語る。ずんだ小径の入り口にある「喜久水庵」で喜久福を食べたHさんは「餅の中に生クリームとあんこが詰まっています。とても甘かったです」と話す。また飲む喜久福を飲んでいたので「抹茶と、喜久福のあんことお餅がマッチしていて、とても美味しかったです」と絶賛した。(甘)



屋間から多くの人でにぎわっている

仙台駅



東北旅行のレクを振り返って

HR委員長にインタビュー

HR委員長の小島大雅さん(3E)は今回の東北旅行について「本当は楽しかったです。最高の思い出になりました」と話す。旅行について生徒が動き出したのは4月5月頃だったそう。本当に現地へ行くことになったときは「ようやく決まったときは「ようやく」と興奮していた」と話す。

「HR委員長の小島大雅さん(3E)は今回の東北旅行について「本当は楽しかったです。最高の思い出になりました」と話す。旅行について生徒が動き出したのは4月5月頃だったそう。本当に現地へ行くことになったときは「ようやく」と興奮していた」と話す。

「東北旅行の思い出は、この東北旅行の思い出だ。HR委員だけでなく修学旅行実行委員も、しおりの作成や行事のPR活動などに尽力した。」

「レクリエーションを計画・実施。イントロクイズや〇×クイズなどみんなが楽しめるレクリエーションになった。東北旅行という人生の大きな行事において、皆さんの思い出作りのお手伝いが出来て光栄でした」と語る。

「な、この東北旅行の思い出は、HR委員だけでなく修学旅行実行委員も、しおりの作成や行事のPR活動などに尽力した。」